



中日新聞「リンクト」  
**LINKED**  
*plus+*  
シアワセを  
つなぐ仕事

SPECIAL REPORT

入院前から退院後まで  
患者の生活を支え続ける。

患者支援室特集

CONTENTS

- 1 Cure 病気のおはなし
- 2 Care 療養支援のおはなし
- 3 地域医療を支える新しい力
- 4 地域医療の豆知識
- 5 NEWS & TOPICS

Message

院長メッセージ

たとえば、ご高齢の一人暮らしや老老介護など、医療と生活の両面でさまざまな困難を抱える患者さんが増えています。そうした方々が安心して入退院し、在宅療養ができるように支えることは、私たち市民病院の重要な役割です。今回は、患者さんのサポートに奔走する「患者支援室」の取り組みを特集で紹介합니다。ぜひご一読ください。

SPECIAL REPORT

# 入院前から退院後まで 患者の生活を支え続ける。

## 患者支援室特集

医療と生活のさまざまな課題に対応し、  
患者と家族のサポートに全力を注ぐ。

CHAPTER 01

### 大腸がんの手術を拒む 患者の思いに寄り添って。

ある日、西尾市民病院の患者支援室に、検査で大腸がんが見つかった患者の相談が舞い込んできた。患者は80代の男性で、妻と二人暮らし。医師は手術とストーマ(人工肛門)の造設を勧め、妻もそれを強く望んでいた。しかし男性は「人工肛門になるくらいなら、手術は受けない」と頑なに拒んでいた。「私が手伝うから大丈夫。あなたに生きていてほしい」と、妻は必死に説得したものの、実は妻自身、人工肛門をつまぐイメージでぎずぎずしていた。

外来から相談を受けた患者支援室の室長、畑中英子は早速夫婦に面談し、手術の可能性を模索することにした。鍵を握るのは、人工肛門への抵抗感の払拭だ。まずは、皮膚・排泄ケア認定看護師に依頼し、ストーマの装具やケアの仕方などを丁寧に説明した。今は装具が進化していて支障なく過ごせること、人工肛門になっても、がんを克服して元気に暮らせることなどを説明していくうちに、男性の抵抗感は少しずつ薄れ、妻も装具のケアに対する自信を深めていくようになった。何度目かの面談の後、男性は吹っ切れた表情で「わかりました。手術を受けます」と話した。その言葉には、「生きよう」という前向きな気持ちがあふれていた。それからしばらくして、大腸がんの手術は滞りなく終わり、夫婦は今、元気な姿で通院し、ストーマ外来のフォローを受けているとい

う。この事例を振り返り、畑中はこう話す。「患者さんも心の底ではがんを克服したいと願っていたと思うんです。その思いを実現できることを、認定看護師をはじめ、スタッフみんなで示すことができました。何よりもお二人に喜んでいただけて、患者支援室として大きな達成感を感じました」。

畑中が率いる患者支援室には、看護師と社会福祉士が常駐。入院生活や退院後の療養生活までをサポートする(入退院支援)、療養中の不安や経済的な問題解決を支援する(医療福祉相談)、病院の利用者を対象に、医療や療養に関する幅広い相談に応える(患者支援)の3つの役割を担っている。それらの業務に共通するのは、常に患者の希望や意思を尊重し、粘り強くサポートしていく姿勢である。

## C O L U M N

●西尾市民病院には、皮膚・排泄ケア、摂食・嚥下障害看護、がん化学療法看護、がん性疼痛看護、認知症看護、救急看護、感染管理、慢性呼吸器疾患看護の8分野にわたり認定看護師が在籍している。

●患者支援においては、これら多様な認定看護師の力を最大限に活用。患者の困りごとに応じて適切な認定看護師が個別に関わり、それぞれの専門知識や必要なケアを提供。質の高いサポートを通じて、安心の療養を支えている。



## 患者が安心して療養できるように。

患者支援室が現在の体制になったのは、令和2年のこと。それまでも患者の退院調整や社会福祉相談は行ってきたが、それらの機能を一段と強化し、治療・療養生活のさまざまな課題に多職種で対応できるキーステーションとして動き出したのだ。その狙いについて畑中は次のように語る。「昨今は高齢患者さんが増え、独居や老老介護など社会的支援を必要とするケースが増えています。また、医療依存度の高い状態で退院し、自宅療養していただくことも多くあります。そうした難しいケースに今まで以上にきめ細かく応えられるように、患者支援の仕組みを充実させました。また、新たに〈患者相談窓口〉を開設し、誰でも気軽に相談できる環境を整え、当院を利用するすべての患者さんをサポートする体制に進化させました」。

患者支援室ではスタッフが院内外の多職種と連携し、さまざまな入院支援や退

## BACK STAGE

### 患者の希望や意思を叶える支援体制づくりの重要性。

●平成24年度の診療報酬の改定で、〈患者サポート体制〉が新たな評価基準に加わり、全国の病院で患者サポートセンターが次々と開設。医療・生活の両面で困難を抱えた患者と家族のサポートに、力が注がれるようになった。

●患者支援の基本は、いかに本人の希望や意思を叶えるか。そのために多職種が連携して取り組む仕組みづくりが重要だ。患者支援は在宅療養の質を高める上でも重要な鍵を握っていくのではないだろうか。



院支援、療養支援に走り回っている。患者支援の案件は年々、増えているという。では、今はどんな課題を感じているのだろうか。「幸い、西尾市は自宅でも施設でも充実した介護サービスが受けられる体制が整っています。老人介護施設も多いので、退院後の行き先として選ぶこともできます。ただ、本当は家に帰りたい患者さんがご家族に遠慮して施設を選択することもあります。本来は、患者さんの希望通り自宅に戻れて、地域で支えていく。つまり、生活の場である地域が、さまざまな障害や病気を抱える人を受け入れる許容力を持てれば理想的です。ゆくゆくは、私たちが在宅医療・介護チームの人たちと連携して取り組むことで、そんな理想の地域づくりをめざしていきたいと考えています」。

超高齢時代を迎え、患者支援は病院と生活を繋ぐ重要なキーワードになっている。「患者さんの満足を第一に、これからも全力を尽くしていきます」と、畑中は改めて決意を語った。

キュア  
Cure

# 病気の おはなし

先生、  
教えて！

テーマ

けんまくせいがんけん か すいしょう  
腱膜性眼瞼下垂症

まぶたが垂れ下がり黒目を覆う病気。  
加齢によって出てくる症状で、  
基本治療は、外科的手術です。



01 物が見え難い、まぶたが重い…。  
頭痛や肩こりも生じます。

年配の方で、「まぶたが垂れ下がり、目を覆うようになってきた」と、思うことはありませんか？ 併せて、見え難い、まぶたが重い、頭痛や肩こりがする、眉の位置が上がってきた、額のシワが深くなったといったことを感じているなら、それは「腱膜性眼瞼下垂症」かもしれません。

腱膜性眼瞼下垂症は、まぶたを上げる腱膜（膜状に広がった腱）や筋肉、神経の異常によるもので、まぶたを上げ下げするときに機能する眼瞼挙筋腱膜や瞼板、挙筋腱膜といった組織が、加齢によって外れたり、伸びたり、あるいは、薄くなったり、途中で切れたりすることで起こる症状です。多くは両目に起こりますが、片目だけの場合もあります。

02 手術により、下がったまぶたを  
持ち上げることができます。

腱膜性眼瞼下垂症の治療は、まずはまぶたの筋機能検査のための検査、必要に応じてCT、MRIによる頭部の検査、血液検査なども行い、まぶたの状態を詳しく調べていきます。

その上で、治療は外科的手術が基本となります。まつ毛の上を切り腱膜を短くする、代用組織を移植する、また、

上まぶたの皮膚の一部を切除し、まぶたを開けるのに抵抗する組織を取り除くなど、症状や状態、あるいは、軽症か重症かによっても術式は変わりますが、患者さん一人ひとりに最適の手術を行っていきます。

手術後、個人差はありますが、1週間程度はまぶたに腫れが生じるものの、激しい腫れは2～3日で引き、その後、数カ月で完全に回復へと向かいます。



## Message

医師からのメッセージ



形成外科 部長  
木内達也

手術による治療で、より高い「視覚の質」が得られます。

腱膜性眼瞼下垂症の治療では、手術で上まぶたの余った皮膚の一部を切除し、腱膜を前転固定します。形成外科においては、比較的簡単にできる手術であり、見やすさが大きく変わります。クリアな視界、良い見え方など、それまでとは異なる「視覚の質（クオリティ・オブ・ビジョン）」を獲得することができ、患者さんの得るメリットは高いと思います。まだまだ一般的な方の認知度は高くありませんが、日帰りや一泊での手術が可能です。気になる方はかかりつけ医にご相談の上、形成外科への紹介をお受けになることをおすすめします。

# 療養支援 の おはなし

テーマ

## ストーマケア

病気を  
治すだけじゃ  
ありません。

人工肛門、人工膀胱の造設後も  
正しい管理とケアで、術前と  
ほとんど同じ生活を送れます。



### 01 ストーマとは 人工肛門・人工膀胱のこと。

ストーマとは、腸や尿管をお腹の外に出して作った人工肛門・人工膀胱のことを言います。排泄は自分の意思でコントロールできませんが、いずれも専用のストーマ袋(ストーマ装具)をお腹に貼り、便や尿を肛門や尿道からではなく、ストーマからストーマ袋に排泄しま

す。溜まった排泄物は、トイレなどに捨てます。ストーマが傷つかないようにケアする必要がありますが、適切なケアと管理で、日常生活はほとんど制限なく送ることができます。

### 02 新しい生活を見つめ伴走する 皮膚・排泄ケア認定看護師。

ストーマが必要と医師が判断した後

は、外来で主治医や認定看護師からストーマの造設、ストーマ装具やストーマケア、日常生活のことなどを丁寧にお伝えしています。その際に患者さんを支えるのが、皮膚・排泄ケア認定看護師です。

皮膚・排泄ケア認定看護師は、人工肛門・人工膀胱、ストーマに卓越した看護技術と知識を身につけた看護師です。ご本人が管理に最適な位置にストーマを造設できるように造設する位置へのマーキングも行うほか、ストーマケアの情報提供、皮膚の管理、装具の選択、日常生活のアドバイス、精神的サポートなど、さまざまな支援を行っています。

ストーマへの不安を抱く患者さんが、安心して新たな生活をお送りいただけるよう、いつも身近でサポートを行います。



## Message

私たちが支援します



皮膚・排泄ケア認定看護師  
右)杉浦 裕美  
左)長谷部 純子

十分な理解と納得が大切。何度でも丁寧にお話しします。

排泄というデリケートなことに関わるストーマは、「これまでと同じように暮らせなくなる」という不安を持つ方がほとんどです。でも、決してそうではなく、排泄物の管理やケアを正しく行えば、手術前とほとんど同じ生活を送ることができます。

私たちは、ストーマケアを「尊厳に関わるケア」と心得ています。外来、入院中、退院後のストーマ外来(看護外来)において、プライバシーを守るのももちろん、画一的ではなく、ご本人の生活背景をしっかりとらえ、十分な理解と納得をいただけるよう、何度でもお話をさせていただきます。また、ストーマ外来は、当院以外で造設された方でも、何かお困りのことがあれば、ぜひ一度、ご相談、ご利用いただければと思います。



地域医療を支える



新しい力

チカラ

対談企画

初期臨床研修医

新人看護師



私たちの  
仲間を  
ご紹介。

めざす姿を大切に、この病院で学び、歩む。



研修医1年目、入職2年目看護師として、現在の状況をお聞かせください。

**池田** 僕は初期研修が始まったばかりですが、成瀬さんは2年目になり、感じたり考えることが出てきたのでは？

**成瀬** まだまだ未熟ですが…。実は以前一度、患者さんとじっくり話す機会を作ったんです。その方は、病気への不安から焦りがあったのか、苛立ちをあらわにすることが多い方でした。

**池田** 患者さんとは、どんな話をしたのですか？

**成瀬** 患者さんの気持ちを優先して、まずはご本人の訴えをお聞きしたんです。私はそれを受け止め、看護師として自分の思いをお話ししました。20分くらいでしたが、最終的には「あなたなら信用できる」と言ってくれました。

**池田** その言葉はグッときますね。

**成瀬** はい。患者さんを第一に考えるって、当たり前のことですが、やはりそこが一番大事。もっと業務に慣れて、もっと患者さんの気持ちに寄り添えるようになりたいと思いました。

私ばかりお話してごめんなさい。初期臨床研修医1年目の池田先生はいかがですか？

**池田** 救急対応や当直に、ほんの少し慣れてきて、やっと机上のものと実際とが組み合わさっている段階ですね。



どんな医師、どんな看護師を、めざして行こうと思っていますか？

**成瀬** 池田先生は、理想の医師像ってあるんですか？

**池田** さまざまな病気のなかには、治るもの、治らないものがありますよね。もちろん医師として治ることに全力を注ぎますが、たとえ治らなくても、「生きているという実感」を持っていただける。そうしたターニングポイントに介入して、何らか提供できる医師になりたいと思っています。そこをファーストにしたい。そのためには患者さんの信頼を得たり、感情を読み取る力も必要ですから、まだまだ先の話ですけどね。

**成瀬** 素敵です！ 私も患者さんの小さな訴えにも、きちんと気づいて応えられる看護師をめざし、頑張らなくては！

**池田** お互いに頑張りましょう！

初期臨床研修医(1年目)

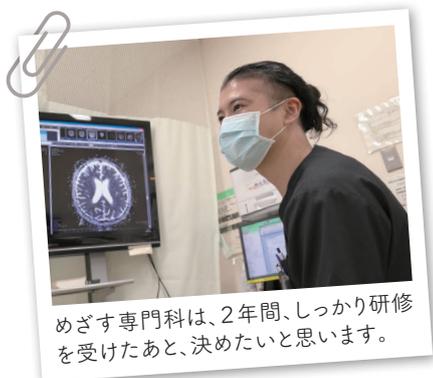
池田計介(いけだ けいすけ)

佐賀県出身。何歳になっても目標を持ち、挑戦し続ける人でありたいですね。

新人看護師(2年目)

成瀬瑠愛(なるせ るあい)

愛知県安城市出身。小学生の頃から憧れた看護の世界に、ついに入りました！



めざす専門科は、2年間、しっかり研修を受けたあと、決めたいと思います。



学生時代から外科が好き。スピード感ある治療は、私の達成感に繋がってます。

こんな言葉知っていますか？

# 地域医療の 豆知識

M A M E C H I S H I K I

テーマ  
退院支援

今回は〈退院支援〉について学びましょう



## 退院後、住み慣れた地域で、 その方らしい生活を送るために、 入院時点から最善の道を探ります。

超高齢社会の我が国では、医療需要がますます高まっています。そのなかでも、適切、且つ、効率的に医療を提供するため、我が国において、医療や介護は、複数の医療機関、介護施設、介護サービス事業者などが地域で連携し、サービスを提供する仕組みになりました。具体的には、重症患者を対象とする急性期病院の入院日数は短縮化され、退院後はリハビリテーション病院への転院、介護施設への入所、介護サービスを利用したの自宅療養など、退院後の療養生活の場が分かれていきます。

「退院後の療養生活」をどこで送るか。それは特に高齢者にとって大きな問題です。そのために生まれたのが、病院における「退院支援」という取り組みです。入院が決まった時点（入院前）から、患者さんの生活背景、家族状況などを考え合わせ、医師や看護師をはじめとする多職種が連携。退院後、一人ひとりの患者さんにとって、最善の療養生活を送ることができるよう、しっかりとサポートを行っていきます。



## 西尾市民病院では

### 患者さんご家族、当院と地域がより深く繋がる努力を続けています。

高齢の患者さんの退院支援で、私が感じている問題点は、大きく二つあります。一つは、独居の方が増えていること。一つは、コロナ禍にあり、ご家族が、患者さんの状態を把握し難いということです。

独居に関しては、元々、ご家族との関係があまり強くなく、どうしても支えが脆弱です。認知機能が低下している方の場合は、成年後見人をお持ちになる必要性も出てきます。これらの場合、当院だけではなく、地域全体を俯瞰して、支える機能を組み合わせて、いかに新たな生活の基盤を持っていただくかを考えることが大切になります。そのため、地域の関連機関とはWeb会議等も活用し、常日頃から連携を強めるよう力を注いでいます。

ご家族が患者さんの状態を把握し難いことは、コロナ禍のため、以前なら毎日面会にきていたのが、今はできないことが大きな理由です。患者さんの現実と、ご家族が思っている状態とに、どうしてもギャップが生まれます。その差を埋めるため、患者さんのリハビリテーション場面を動画で撮影してご家族にお見せしたり、電話で丁寧に説明したりしています。

今後はさらに工夫し、地域と、そして、患者さんご家族とが、より深く繋がっていけるよう努めていきます。

患者支援室 医療ソーシャルワーカー  
各務雅基



01

## 在宅患者一時入院(レスパイト入院)をご活用ください。

当院では、令和3年4月から、在宅患者一時入院(レスパイト入院)の受け入れを開始しました。介護者の日々の疲れ、病気・出産・冠婚葬祭など、在宅介護が困難となる場合、当院へ一時的に入院できる仕組みをつくりました。ぜひご活用ください。

ご相談先

- かかりつけ医の先生
- ケアプラン事業所(ケアマネジャー)
- 訪問看護ステーション

ご利用にあたって

受入可能な方、ご利用期間には一定の条件があります。詳しくはホームページをご覧ください。



こんなときにはご活用ください。/

介護者である私が手術することに

介護疲れで少し休みたい

冠婚葬祭で介護をする人がいない



02

## 外来待合及び各病棟で、Free Wi-fiをご利用いただけます。

患者さんの利便性向上のため、外来待合及び各病棟にFree Wi-Fiを整備し、令和4年4月から運用を開始しました。ぜひご利用ください。

利用可能時間

午前6時から午後9時まで

利用時間

1日の利用時間の制限はありません。

利用可能場所

外来待合・入院病棟(病室・食堂・デイルーム)

※SSID名・パスワードは、院内掲示のポスターをご覧ください



企業の皆さま、医療機関・介護施設の皆さま

地域医療  
デジタル掲示板  
広告募集

西尾市民病院、市役所設置の大型モニターで市民の皆さんに情報をお届けできます。

※掲載事項及び内容には、審査がございます。



詳しくはお問い合わせください

合同会社プロジェクトリンク事務局  
担当: 吉見

TEL: 052-884-7831

info@project-linked.com

## 看護師募集中!

お気軽にお問い合わせください。

安心して働ける  
サポートがあります。

お問い合わせ先

西尾市民病院 事務部 管理課 職員担当  
0563-56-3171 (内線2286)

病院広報誌 特設サイト



こちらから



地域の皆さんや連携機関の皆さんと「西尾市民病院」を情報で繋ぐ、広報誌連動型コミュニケーションサイト。ぜひご覧ください。

LINE〈公式〉アカウント

病院広報誌「Ciao」のLINE〈公式〉アカウントを開設しました。QRコードから「友だち追加」をお願いいたします。



西尾市民病院

NISHIO MUNICIPAL HOSPITAL

〒445-8510 愛知県西尾市熊味町上泡原6番地

TEL 0563-56-3171(代表) URL <https://hospital.city.nishio.aichi.jp/>7 月号 No.10  
2022

発行責任者/院長 榎宜田 政隆

発行/西尾市民病院

記事提供/中日新聞広告局

編集協力/プロジェクトリンク事務局

発行日/2022年7月1日